



一人之信和歌

全



特
門 曾 9
號 600
卷 166

人三臣和歌

詠二十首

早春等

新院所歌

いほしとゆえーまきうへいまはあはれものなまをよ
たふ集所傳受れゆとりのこく詠をうまを

朝庭

たねも今傳えんまのまの傳よ白の鏡目もかきすふあや
まの今此字今こえといひしとらうよまの月の伝し
まの今あつたえをまの今の今のまのふくま
今日の今の字よハ何の次世傳よ先法のうつり易
まの今といひて百年も今のまのまのまの今也

夕梅



あつた家へ海とさきへ父をなげくれり後と白く病ま
こつたとききりかきと白いとよつと方るこ方ふは海切
かへてさきへへ移るころよんとつてさきへへさき
後とさきへへ移るころよんとつてさきへへさき

庭春歌

陸とさきへへ移るころよんとつてさきへへさき
まをぬらぬ細細成とのをれいさう

見花

まをぬらぬ細細成とのをれいさう
さきへへ移るころよんとつてさきへへさき
とさきへへ移るころよんとつてさきへへさき
さきへへ移るころよんとつてさきへへさき

関郭云

あつた家へ海とさきへ父をなげくれり後と白く病ま
こつたとききりかきと白いとよつと方るこ方ふは海切
かへてさきへへ移るころよんとつてさきへへさき
後とさきへへ移るころよんとつてさきへへさき

又月夜久

あつた家へ海とさきへ父をなげくれり後と白く病ま
こつたとききりかきと白いとよつと方るこ方ふは海切
かへてさきへへ移るころよんとつてさきへへさき
後とさきへへ移るころよんとつてさきへへさき

水色歌

あつた家へ海とさきへ父をなげくれり後と白く病ま
こつたとききりかきと白いとよつと方るこ方ふは海切
かへてさきへへ移るころよんとつてさきへへさき
後とさきへへ移るころよんとつてさきへへさき

遠夕夕

そらそらちやみちくれて夕夕にやよよれさる此涼よさ
すくみち

樹陰納涼

あつたをあつたに扇とてささくさあふた凡のほろよ本屋を
あつた扇と陰ちうささくさあつたをあつた
扇をほろよとてしるすよれ

草花元宿

さやみちくさるもささあのもちやゆさるあなめ外風
すくみち

雲の中庭

けしきとれ久のちま代くわあも草やさるよるさつる二層の二り

江ふ屋

野々麻

こけの草さるささくさや野々麻の杜凡をささくさ
ささくささささささささささささささささささささ
ささくさささささささささささささささささささささ

海夜月

見ろまよこむあさのさるりれて月ありしは海ふよのな
見の字二つ一紙さる

山紅

新田娘名ま河の山のとちうさるあつたあつたあつた
新田娘あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

瑞よりも神のみ遊らして

初め時文

とみわをきくも一衣のあはれきくもあはれきくも
あはれと石敷せられくも一衣のあはれきくもあはれ
とあはれと一衣のあはれきくもあはれきくもあはれ
あはれと一衣のあはれきくもあはれきくもあはれ

何歩

名とわして言ぬる何歩を此川を流る今時ハ沙連系
言ぬる言ぬる何歩を此川の流る今時ハ沙連系
あはれと一衣のあはれきくもあはれきくもあはれ

連日書

此年ぬ日ぬ所なりハ是所のまかりハとあはれきくも

又そのまうまハとあはれきくもあはれきくもあはれ
あはれと一衣のあはれきくもあはれきくもあはれ

浦子名

浦子名もあはれきくもあはれきくもあはれきくも
あはれと一衣のあはれきくもあはれきくもあはれ

夜神業

みよのうまよ一けてハ浦子名此中ハ所系ぬ星のあ
みよのうまよ一けてハ浦子名此中ハ所系ぬ星のあ
うまよ一けてハ浦子名此中ハ所系ぬ星のあ
あはれと一衣のあはれきくもあはれきくもあはれ

君の心

うら—はよいはつてえんおゆのはいふよあはる原まの国と
ち飲ふおとさう—おゆつ—こり—およひとがよ
と飾りあつるお

不夜夜

雛面は我をまげとてはつらよとちよつるおとれとるもうさ
人のまげきつてはつらよとちよつるおとれとるもうさ
あつちよまげとてあつ—つらよつるおとれとるもうさ
よつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも
あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも

待恋

あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも
あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも
あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも

あつちまげ

不夜夜

あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも
あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも
あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも

恨恋

あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも
あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも
あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも

不夜夜

あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも
あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも
あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも

不夜夜

あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも
あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも
あつちまげとてあつちまげ—あつとて—つらよつるおとれとるも

ふりやう

四時中燈

とらへ火とわげそへてあつと愛もしたるあまのす
半夜燈を十年事るといふやうのゆゑ

ふれん

のこもてせのこけきよく入ふよすうと早の瓦やい有
河波のきつとら流風せりしと兼ぬら流る標のつく

社元祝

あのかきよまのせしとくたのの神しきうはたさくらん

別

早考

鳥丸

早もたのこつてあつたのたふまをりやいし

乃も傳交るとと自愛にをりさくまの無れ出る

よこしとくちとくちとくちとくちとくちとくちとくち

無きも多とくとくち本とくちとくちとくちとくち

りしての序とくちとくちとくちとくちとくちとくち

外

和附日願との母とくちとくちとくちとくちとくち

別

夕梅

見しや流梅のこくちとくちとくちとくちとくちとくち

疎影横斜小清浅啼鳥海動月昔曾と云詩とくち

庭春

春も此朝のそくちとくちとくちとくちとくちとくち

遠き倉敷橋や花のくさくさ

見花

ふくみのやうな花のくさくさ
こころをわらわす花のくさくさ

岡部

あちえーとさよふとさよふ
さよふとさよふとさよふ

六月

あつた日影のあつた日影
あつた日影のあつた日影

山

あつた山影のあつた山影
あつた山影のあつた山影

あつた山影のあつた山影
あつた山影のあつた山影

樹

あつた樹影のあつた樹影
あつた樹影のあつた樹影

草

あつた草影のあつた草影
あつた草影のあつた草影

中

はたさるも初まそほのくきよりしき方身初めならん

列子あり

野鹿

木の位地をこの種れむもた書いふ鹿をいふつね
ふもあし

浮舟月

よあつしほろくはれ限りも文りて日よくあし
列子あり

ふれそ

と田いちはねれくおまそあのかきあふあつす
列子あり

初め時

まのふもあしめれはせぬあかたそあつあつ
伊勢の初めはせぬあつあつあつあつあつあつ
せしやまらとくし月とりあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
二神くやまたあつあつあつあつあつあつあつ

何少

と初めあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

連日

積りあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

ふゆき

浦子

浦流の月れはうららかに夕よほして夜あふさるる

夜沖示

あふさるる月れをみればあふさるる風もあふさるる
そと世の世のゆきとあふさるる風もあふさるる

あふさるる

あふさるる月れとあふさるる風もあふさるる

あふさるる

あふさるる月れとあふさるる風もあふさるる

あふさるる

あふさるる

あふさるる月れとあふさるる風もあふさるる

あふさるる

あふさるる月れとあふさるる風もあふさるる

あふさるる

あふさるる月れとあふさるる風もあふさるる

あふさるる

あふさるる月れとあふさるる風もあふさるる

ふゆふゆはるるの思ふをうゑたはと流るる時を
夜更

東の夏よ色くもまの春はくもまの栞よわかき集めて
漸き遷つ夏よ地味春栞^生のふとにゆるなま申こぞ
よはかりしてまの栞よあこしくする色もあまふてめ
とかくのやくも集めてし何の面目もあまふてくれ
ともまの栞よつきてあか早下れつとまをんぬよあま
是より古例の一ゆるる

霽中燈

あえそつてそこもふもぬおれさるるま栞大の
ふゆま

山家瓦

あつらふ吹さかたふかたのまもあまのふゆか
あまあまのけはあまのまのまのま

社頭祝

神もさる日流るの流る傳り(まあやハま此れを
日嗣と帝位と云日中の流るけ嗣を八國ちれん
あまの所傳交と法皇より新院へ傳りたる
帝位と流るもま新院此まこめたるも流る
と祝しなるこめたる王法神々の傳りたる
右へ思流書行製の次流礼中牙を日跡
大納言資を中院大納言之能流伝所傳交
之に牙を伝く

早春号

あみあみして白い女根とまるとぬらしてまそのをく
あまはらばらしくけりくまらおぼる丸よこめい包
のあいらなきさう花いふかあはか早下りいし

胡麻

あまらあまの男の物すこまのあしとあまら
わ凡の物さきさきまをうろろあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら

夕梅

あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら

花

あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら

あまらあまら

花

あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら

岡郭

あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら

あまらあまら

あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら

あまらあまら

あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら
あまらあまらあまらあまらあまらあまら

り改

樹法納涼

凡法きみこころなる本法もかきたれ又昔の美しき

御書法蓋し障き昔日厚自許きたるのこ

子也

あまき相もまへて百もたれたよとよき色の杖

列

あまき

まの川をたへてあこれよとよきもてえて新をた

古飲まの川をたへてあまの川をたよ人のこたれよとよ

あま申

あまの川もこころあま原きり新あこれよきとよ

あまき

野麻

あまき麻を夢形のももてあまの川をたよとよ

あまき

あま月

あまの川をたよとよあまの川をたよとよあまの川をた

あまの川をたよとよあまの川をたよとよあまの川をた

あま

あまの川をたよとよあまの川をたよとよあまの川をた

あまの川をたよとよあまの川をたよとよあまの川をた

あまの川をたよとよあまの川をたよとよあまの川をた

あま

いほかぬ松のありしきまねととねとせむとさういふ
ふんき

何少

朝川は弱うちつてあつたれとや少くぬのよの良
りり

庫日多

ついでしてとせぬ庭よりぬもあつたれにせむと
りり

浦子多

ゆらうさへ行とうわかれ浦らうとくついでとせむと
早下のつらうとふんき

夜神業

朽らぬにぬれんをぬ柳をよき家たれ月の文がわかし
柳とよもゆあめはなはとめいふとくついでと
ゆらうさへ行とうわかれ

忠意

是のあやうらやと人同川神の工うみとさうなれと
りり

ふんき

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
りり

ゆ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

月よあけのこゝろに心はあはれなるまはるる月よあけのこゝろに
あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに
きい月とわかれのこゝろに

過不夜

こゝろにあけのこゝろに心はあはれなるまはるる月よあけのこゝろに
あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに
きい月とわかれのこゝろに

恨

あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに
あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに
あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに

晩や

あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに
あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに
あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに

夜更

あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに
あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに
あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに

露中燈

あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに
あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに
あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに

山家風

あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに
あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに
あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに

社頭祝

あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに
あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに
あかあけよあけなりをれとていふまはるる月よあけのこゝろに

早春雪

日野弘深具

梅あしぬ垣ねもまきれぬに有とくし得えこころいふかき
あしぬ

朝庭

雪影とあまのうらうらよ遠きるるわくと静よう庭神の春
川ささき

夕梅

夕梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
夕梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
夕梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
夕梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
夕梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に

庭まきぬ

梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に

見花

梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に

園部

梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に
梅の影に白の梅の影に夕梅の影に白の梅の影に

夕梅

ふみしたを折る人新地板つゝ一入一々母此新中
ふみと

ありと

何の糸はくもいとあまねくあまねくつゝ来て形なり

遠くたか

遠くたかをききやききりすのよめいらく目乳

樹法御原

近うふふと坤人よ夕涼手法玄化大風のやうに
あふたりす凡のやうとけつふふ花のあふりて候ん
草花を

くばり此が柱の中は、新うえのふもとあふりて候ん
あふり

音中序

泳やふ方のあえまらんどもあふりて候んと候ん
あふり

野麻

草花を折るよあふりて候んと候ん
あふり

海夜月

月やふふとあふりて候んと候ん
あふり

山花

深きまゝの流此をりかよふ奥や一木の
こゝの奥や一と一奥のこゝ

初めはむ

あゝのふ羽の風をたきておろしよは海にむか
ふはる

何れ

あゝの川かゝぬもとにたゞりて川瀬や越海しん

工飲山峯川かゝりしるまゝいそはぬよふかた

連日雪

あゝぬ目とほそく市念のちも海とやいそみんよそ

孫康の故事とてしりて雪音の功とて公学文のゆゑ

浦千々

文やうあゝ此月の夜ちとるまをく海風をぬく

いやはら

神業

田舎の江流かゝるよあけし雪りやえつよひの代

ふと年ふ代と神業のこゝいよ

思ふ

山陰にむすれはるのこゝいよ

ふはる

あゝ

しりあそあゝはる(深き)川よはるあゝのこゝいよ

りり

は

園を丸うちやる能をまじき言の始まほきあはれ

りら
(海(みまの))

笑つあよ床枕の花をあらわぬ恨この又捨つとて

恨

悔をいそみきあはれ年月よふくは恨をいそみ
恨(きうに中)とてあはれあはれあはれあはれあはれ
切のつもてこれよふあはれいよいよいよいよいよいよいよ
まな恨この恨しよあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
是中あらはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

暖(あま)

きいけ地元のすもこの流あまもはよはれ流恨
もこと恨あまあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

一(一)夜(よ)

いあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

中(ちゆう)一(いつ)燈(とう)

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

一(一)家(か)

地のはりよ市のほほをすまのの瓦よはくくはるは

市中の隠るんし

社孔祝

まことせよ志氏鳩のたつらき志きしは古の神
列もま

太史皇者自後水院新院牙昂馬丸
中院は古く集所修文之後出題之油軟
を殊勝之中也

